医療機関での実習における大学生の自己開示への態度（２）

－実習日程の経過に伴う患者への自己開示に対する抵抗感の変化－

○中村有里¹・武井祐子¹・水子学¹・高尾堅司¹・奥村由美子²・山田了士^{1,3}（非会員）
（¹川崎医療福祉大学医療福祉学部・²帝塚山大学心理学部・³川崎医科大学精神科学教室）

キーワード：自己開示・職業倫理

Analysis of University Students' Attitude to Self-disclosure in Practical Training at Medical Institution（２）

Yuri NAKAMURA¹, Yuko TAKEI¹, Manabu MIZUKO¹, Kenji TAKAO¹, Yumiko OKUMURA², Norihito YAMADA^{1,3}

（¹Kawasaki University of Medical Welfare, ²Tezukayama University, ³Kawasaki Medical School）

Key Words: Self-disclosure, Professional Ethics

目 的

日常の対人関係場面における自己開示は親密な関係を構築するために大きな役割を果たしている。しかし、心理臨床場面においては、臨床家の自己開示が、対象者との個人的な関係に発展する可能性を含んでおり、倫理的要素を含む行為として考えられている。専門教育を受けている学生であっても、臨床現場の実習で出会う対象者とのコミュニケーションの中に、倫理的要素が含まれていることに気付くことは少なく、対象者と学生双方の安全を脅かすものになりがちである。学生の自己開示に関する倫理的な規範意識とその判断については個人差が大きく、その判断に関わる要因は明らかにされていない。本研究では、大学生を対象に、医療機関での実習を想定し、実習日程の経過に伴う学生から患者への自己開示に対する抵抗感がどのように変化するかを明らかにすることを目的とした。

方 法

【調査期間・対象者】研究(1)を参照。

【質問紙の構成】質問紙は、回答者が医療機関での実習に行ったと仮定した４場面を設定した。本報告でとりあげる場面１は、実習初日に架空の患者Ａから個人情報の開示を求められるという設定であり、場面４は、実習最終日に、初日以降、毎日顔を合わせ、話をするようになった患者Ａから場面１と同様の開示を求められるという設定である。患者Ａから開示を求められた内容として、表１の８項目を設定した。場面１と場面４において、患者Ａに開示することに対する抵抗の有無について、項目ごとに「抵抗なし」「抵抗あり」「わからない」の３件法による回答を求め、「わからない」の回答は本報告の分析から除外した。

結 果 と 考 察

場面１と場面４において、個人情報を中心とする８項目を開示することへの「抵抗なし」「抵抗あり」の回答についてクロス集計および χ^2 検定を行った。その結果、すべての項目において、１％水準で有意な関連がみられた（表１）。項目別にみると、８項目のうち、『生年月日』と『アルバイトをしている場所』では、両場面ともに「抵抗なし」の比率が大きかった。

一方、『住所』『電話番号』『メールアドレス』に関連する残りの６項目は、両場面ともに「抵抗あり」の比率が大きく、開示に際して考慮すべき個人情報ととらえる傾向がみられた。８項目すべてにおいて、実習日程の経過に伴う開示への抵抗感に変化はみられなかったものの、場面１で「抵抗あり」と回答していたにもかかわらず、場面４で「抵抗なし」に回答する者や、場面１の「抵抗なし」の回答から、場面４で「抵抗あり」に回答する者もみられた。特に『携帯電話のメールアドレス』は、場面１の「抵抗あり」の回答から、場面４での「抵抗なし」の回答への変化率が相対的に大きい項目であった。実習日程の経過に伴い、「抵抗あり」から「抵抗なし」へと抵抗感が変化する者と、一貫して「抵抗なし」と回答している者については、開示内容の倫理的要素に気付いておらず、実習場面においても、日常の対人関係と同様の関係構築を行おうとしている可能性が考えられる。

今後は、開示に対する抵抗感の背景を明らかにし、臨床場面での倫理的要素の探索スキルを獲得するために、より実践的な取り組みへとつなげることが必要であると考えられる。

表１ 場面別にみた個人情報の開示に対する抵抗感の有無

		場面４（実習最終日）		χ^2 値	計 (100%)
		抵抗なし	抵抗あり		
場面 １（実習 初日）	生年月日	抵抗なし 272(90.4%)	抵抗あり 10 (3.3%)	69.1	301
		9 (3.0%)	10 (3.3%)		
	下宿先	抵抗なし 51 (20.5%)	抵抗あり 8 (3.2%)	92.1	249
	住所	35 (14.1%)	155 (62.2%)		
	帰省先	抵抗なし 50 (18.9%)	抵抗あり 10 (3.8%)	137.7	264
	住所	17 (6.4%)	187 (70.8%)		
	帰省先	抵抗なし 21 (7.5%)	抵抗あり 5 (1.8%)	94.7	281
	電話番号	22 (7.8%)	233 (82.9%)		
場面 ４（実習 最終日）	携帯	抵抗なし 47 (16.8%)	抵抗あり 6 (2.2%)	71.4	279
	電話番号	59 (21.1%)	167 (59.9%)		
	パソコン	抵抗なし 54 (21.7%)	抵抗あり 8 (3.2%)	71.2	249
	メールアドレス	49 (19.7%)	138 (55.4%)		
	携帯	抵抗なし 57 (21.3%)	抵抗あり 10 (3.7%)	56.4	268
	メールアドレス	65 (24.3%)	136 (50.7%)		
	アルバイト	抵抗なし 164(62.6%)	抵抗あり 26 (9.9%)	135.1	262
	場所	7 (2.7%)	65 (24.8%)		

注）本研究は、平成 23 年度川崎医療福祉大学医療福祉研究費の助成を受けて実施された。